

自然環境との調和～生物多様性保全に向けて～ トピックス

豊かな自然環境の維持保全

大和ハウスグループ

当社グループの大和リゾート(株)が全国30ヶ所で展開するロイヤルホテルは、国立公園等に含まれる8ヶ所をはじめ、豊かな自然に恵まれた立地環境にあり、その周辺環境の維持管理を通じて生態系保全に取り組んでいます。全国30ホテルの敷地面積の合計は約150万㎡を超え、保安林にも囲まれています。

各ホテルでは、管理者による定期的な樹木の点検を行い、虫害などがみられる場合には森林管理者の指導のもと早急に対策を実施しています。また、周辺の水環境(湖沼、河川、海)の汚染防止のため、排水の管理については、自主基準を設け定期的な測定を行なうなど、厳密な管理を行っています。

さらに、敷地内はもちろん、周辺の清掃や雑草処理なども積極的に実施し、地域の方と共に生態系保全に取り組んでいます。

今後も、周辺環境の維持保全の取り組みを継続するとともに、積極的な生態系の修復に取り組んでいます。



豊かな森林の保全(南浜路ロイヤルホテル)

自然と調和した住まいと街づくり

大和ハウス工業

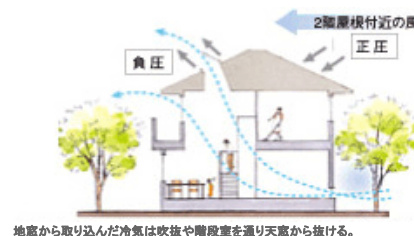
建設活動は、結果的に自然界に手を加えることで社会生活の基盤を創る行為といえます。自然環境に与える影響は大きく、だからこそ、私たちが豊かな自然環境の保全・創出に果たすべき責任も大きいと考えています。その責任を自覚し、自然を活かした快適な住まいづくりや生態系に配慮した街づくりを進めています。

関連項目

第18回 地球環境大賞の受賞について

風を活かすデザイン～昔ながらの知恵に学ぶ～

日本の民家には、夏に「越屋根」から室内の暖まった空気を効率よく排出するなど、風と共に暮らすさまざまな工夫が施されていました。当社では、こうした先人の知恵に学び、通風に配慮したプランニングなど、風を活かすデザインに取り組んでいます。



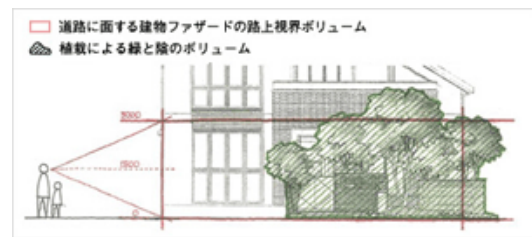
地窓から取り込んだ冷気は吹抜や階段室を通り天窓から抜ける。

緑を活かすデザイン～三分(さんぶ)の緑陰～

当社では、居住環境と周辺環境をつなぐ仕掛けとして、住まいの緑化を効果的にデザインし、美しい外観を整えることを積極的に提案しています。その一つが、視界に入る建物正面の1/3程度を植栽の緑とその陰で覆う「三分(さんぶ)の緑陰」というデザインコードです。

季節の色や花を楽しむという景観としての効果に加え、プライバシーの確保や防犯対策、さらには陰をつくり風を呼びこむ効果もあります。

当社独自のデザインコード「三分(さんぶ)の緑陰」



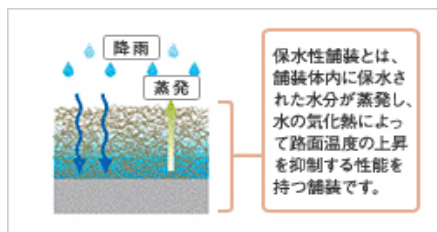
水を活かすデザイン～打ち水効果を活用～

当社では、都市部の街づくりを中心に、ヒートアイランド対策として保水性舗装[®]の採用を積極的に進めています。これは、保水された雨水が蒸発する「打ち水効果」を利用、昔ながらの知恵を活かした快適な環境づくりです。

また、保水性舗装には、廃材をリサイクルした舗装材やレンガチップを使用するなど、環境に配慮した素材選びにも努めています。

※ 保水性舗装：舗装体内に保水された水分が蒸発し、水の気化熱により路面温度の上昇を抑制する性能を持つ。

保水性舗装



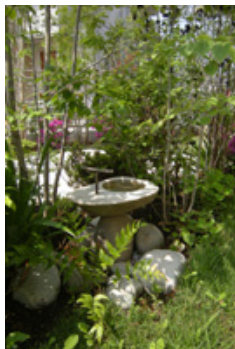
生態系の循環を活かすデザイン～小動物との共存～

大和ハウス工業

生態系とは、生き物やそれを取り巻く環境がお互いに関係し合って生命の循環が繰り返されている仕組みのことをいいます。

当社では、野鳥・昆虫・蝶などの小動物との共存を目指した住環境を生み出すため、小動物を「誘う」アイテム(野鳥を呼び寄せるバードバスや、実のなる木、小動物の棲家となる多孔質空間など)を取り入れる外構計画を提案しています。

またその環境をつくるにあたり、遠く離れた場所から材料を調達するのではなく、地産地消の考えを基に地元の材料や生産品を活用し取り入れることで、地域文化を継承する街づくりを目指しています。



庭を防げる野鳥たちが羽を休めることができるバードバス



小動物のすみ家となる多孔質空間のあるフンカゴ

■ せんだい宮の社複合開発事業における環境配慮型開発の取り組み

大和ハウスグループ

「せんだい宮の社」は、仙台市街においてバランスのとれた街づくりを目指した商業施設・マンション・戸建住宅からなる複合型街づくり事業であり、周辺の住まい環境や河川や森・既存樹等自然環境に配慮した「環境配慮型開発事業」をテーマとし、さらに複合した街それぞれの魅力を導き出せるよう計画しました。

特に街の中央に設けた公園を中心とした「みどりの尾根」は、北側の丘の森と南側に隣接する小川を連続的につなぎ、既存のケヤキと桜やネックレス状に点在する広場のみどりと相まって、夏には川の涼風を呼び込み冬には北風を弱め、鳥や昆虫たちを呼び込む、人と自然の出会いの場にもなっています。

そしてまた「みどりの尾根」を中心とした環境は、地区計画や管理組合を導入するなど、仙台市と戸建・マンション・商業店舗等、官民協力し将来に渡って計画的に管理される仕組みづくりをサポートしています。

※ 管理運営は、商業は大和情報サービス・戸建ではダイワサービスによって運営されています。
また現在戸建販売は第3工区第1期まで完売(67区画)しており、最大倍率13倍にも達し大変好調に推移しています。



せんだい宮の社(完成予想図)



みどりの尾根



既存の様をそのまま残した公園

関連項目

▶ 「Challenge! We Build ECOコンテスト」で最優秀賞受賞

総合緑化事業「ecologreen(エコログリーン)」の推進

大和ハウスグループ

大和リース(株)では、設置が容易でローメンテナンス、自動灌水設備も不要なため経済性に優れた折板屋根緑化システム「eco(エコ)ヤネ」を中心に、屋上スラブ緑化システム「eco(エコ)ヤネslab(スラブ)」や屋上菜園システム「eco(エコ)ヤネfarm(ファーム)」、駐車場緑化システム「eco(エコ)ヤネparking(パーキング)」、壁面緑化、室内緑化、外構緑化という豊富な商品ラインナップで、さまざまな用途施設における緑化をトータルにプロデュースしています。

また、お客さまの費用負担を軽減し、これら緑化システムの導入を推進するためリース方式にも対応し、お客さまの多様なニーズに応える総合緑化事業「ecologreen」を積極的に進めています。

2009年度は、工場や商業施設を中心に、60棟・約20,000m²の施工実績となりました。



折板屋根緑化システム「eco(エコ)ヤネ」



駐車場緑化システム「eco(エコ)ヤネparking(パーキング)」

関連項目

- 大和リース(株)「ecoヤネ」
- 大和リース(株)「ecoヤネfarm」

環境自主行動として、「森林育成紙™」をグループで導入

大和ハウスグループ

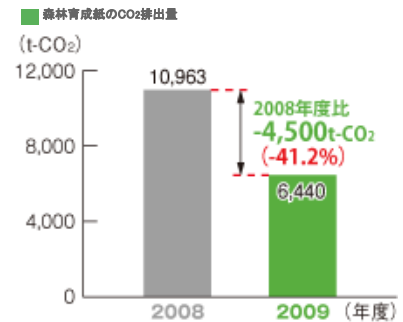
当社グループでは、「共創共生」の基本姿勢のもと、森林資源の持続的な発展のため、2008年4月、当社独自の基準を設けた「森林育成紙™」の導入を決定しました。

「森林育成紙™」は、森林認証制度の認証を受けた紙など、当社が独自で策定した環境基準をクリアした紙の総称です。これまで資源保護の観点で使用してきた再生紙の、製造工程における環境負荷を考慮し、「日本列島に森林を残す」—資源の持続的発展の観点から、当社グループで制作するカタログやチラシ、名刺、封筒などの紙を「森林育成紙™」に切り替えました。その結果、紙の製造工程時に発生するCO₂排出量を2008年度比で約4,500t-CO₂削減(約41%削減)することができました。「森を育てる」活動を実践していく環境自主行動として、今後もグループ一丸となって取り組んでまいります。

※ 森林認証制度: 独立した第三者機関の定める基準に沿って、適切で持続可能な森林の管理を審査・認証する制度。認証された森林では、適切な間伐により下草の栄養分を確保し、多様な生態系を育むとともに、水と土壌を守り温暖化防止に役立っています。



森林育成紙を使った冊子



関連項目

- 森林育成紙™について